

令和6年11月25日

浜田市議会議長  
笹田 卓 様

議員名 肥 後 孝 俊

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

#### 1. 研修先

- 11/14 マニフェスト大賞受賞事例研修会  
(株)メディアドゥ セミナールーム  
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 5F  
11/15 マニフェスト大賞授賞式 虎ノ門ヒルズフォーラム 東  
京都港区虎ノ門 1丁目 23-1

#### 2. 受講の目的 (市政との関連など)

首長・議会をはじめとした民主主義を支える改革のトップランナーたちによる取り組みを学び、本市におけるより良い議会の在り方と善政担う一員となるため。

#### 3. 期 間 令和6年11月13日(水)～ 令和6年11月16日(土)

#### 4. 調査経費 44,314円

(経費内訳 研修費 6,600円、宿泊費 15,360円、航空機代 19,540円、  
電車代 2,026円、自家用車燃料代 788円)

#### 5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

全国の首長・会派・議会・市民など、各地域で民主主義を支える最新の取り組みを一挙に学ぶことができた。今後も地域社会の発展に貢献できるよう、積極的に議員として地域の課題を解決する活動に取り組みたい。

#### 6. 調査研究活動の概要

詳細は別紙のとおり



## 所感

多くの優れた全国の議会改革の取組み事例を目の当たりにし、議員として大いに刺激を受け、これからの議会活動・議員活動に良質な熱を運びさせてもらった。以下、グランプリ大賞と松江市の受賞事例で感じた所見を紐解き、所感とする。

## ●シティズンシップ部門 最優秀賞 マニフェスト大賞グランプリ受賞 「チーム安野の活動と社会に与えたインパクト」

### 概要

チーム安野は、東京都知事選挙において、従来の選挙活動とは一線を画す、革新的な取組みを行った。それは、**ブロードリスニング**という手法を用いた、有権者参加型の政策形成です。インターネットやAIなどのテクノロジーを駆使することで、双方向のコミュニケーションを実現し、選挙戦を「一方的な情報発信の場」から「有権者と共に未来を議論する場」へと転換させました。

### 具体的な活動内容

チーム安野は、以下の3つのステップでブロードリスニングを実践。

1. **聞く** SNS上の膨大なデータを分析し、有権者の意見や関心事を可視化。
2. **磨く** オンライン掲示板を設け、有権者からの政策提案や修正意見を募集。その結果、期間中にマニフェストは**85回**もバージョンアップされた。
3. **伝える** マニフェストの内容を学習させたAIアバター「あんの」を作成し、有権者からの質問に回答した。合計**8,600**件もの質問に答え、積極的な情報発信を行った。

### 社会に与えたインパクト

チーム安野の活動は、社会に以下のインパクトを与えた。

- **選挙活動の新たな可能性** ブロードリスニングの手法は、従来の選挙活動では難しかった、有権者との双方向のコミュニケーションを実現。これにより、有権者の政治参加意識を高め、選挙への関心を向上させる効果が期待できる。「できた」と言っても良いと個人的には思う。
- **政策の質の向上** 有権者の意見を直接政策に反映させることで、より地域の実情に即した、質の高い政策を立案することが可能になった。
- **情報発信の進化** AIアバターを活用した情報発信は、有権者一人ひとりに合わせた情報提供を可能にし、政策内容の理解促進に貢献した。

### 結論

チーム安野の活動は、テクノロジーを活用した新しい選挙活動のモデルケースとして、高く評価されグランプリを受賞した。彼らの取組みは、今後の選挙活動や政治参加のあり方に大きな影響を与える可能性を秘めている。また民意が分かりやすく反映される新たな仕組みとも言えるのではないだろうか。

## ●ローカルマニフェスト部門(首長)最優秀賞受賞 松江市の取組み

### 概要

松江市は、市民にとって当たり前でも、世界の中で松江にしかない強みを活かすべく、総合計画「松江ドリームス」を策定した。

### 計画策定のこだわり

- ・ 市民目線と分かりやすさを重視し、サイズやイラストにこだわった。
- ・ 小学生は漫画を読む感覚で、中高生は地域を学ぶ教材として、登場人物になりたいと思えるような内容にした。
- ・ 総合計画がきっかけで移住した地域おこし協力隊員もおり、松江市をアピールする素材にもなっている。

### 将来像

- ・ 計画のゴールである松江の将来像は、市民の意見を反映させたもの。
- ・ 中高生、大学生を対象とした夢アンケート、40代以下の世代が意見交換する未来創造会議、市内5つのエリアでのタウンミーティングを実施。

### 目標と施策

- ・ 5つの基本目標を設定し、その達成のための18の施策を2030年の市民の実感として表現した。
- ・ 各政策をSDGsのゴールと紐づけて、目標達成を推進。

### アフターフォロー

- ・ KPIを踏まえた年度ごとの定点評価と、外部審議会の検証によるPDCAサイクルを徹底している。
- ・ 未来創造会議や総合計画をテーマにした出前講座で伺った市民の意見を計画に反映し、実行に移している。

### 成果

- ・ 計画策定から3年目を迎え、徐々に成果が現れてきている。
- ・ カーボンニュートラルの実現に向けて、大手自動車メーカーホンダとの共同による松江城の堀を周遊する堀川遊覧船の電動化や、民間企業と連携したプラスチックリサイクルにも取り組んでいる。
- ・ DXを活用した子育て支援策を相次いでスタートしたことなどにより、「共働と育てしやすい街ランキング」で中国地方1位を獲得し、2022年から30代の人口は社会増に転じている。

## 今後の展望

松江市の取り組みが、全国、世界各地の課題解決に寄与するロールモデルになることを目指し、2030年に向けて、夢を実現できる町、誇れる町松江の創造に向けて歩みを進めている。

## 市民参加と協働の重要性

今回のマニフェスト大賞では、市民参加と協働を重視した取り組みが数多く見受けられた。市民の声を政策に反映させるだけでなく、市民自身が政策形成に積極的に関与することで、より地域の実情に即した、効果的な政策立案が可能になることを改めて認識した。

## 情報発信の重要性

受賞事例の中には、広報活動に力を入れている団体が多く見られた。政策の内容をわかりやすく市民に伝えることで、市民の理解と関心を高め、政策への支持と協力を得られるだけでなく、さらなる市民参加を促進することに繋がると感じた。

## AIをはじめとしたテクノロジーの活用

AIやその他のテクノロジーを活用した政策も注目を集めていた。行政サービスの効率化や市民生活の向上に役立つだけでなく、新たな課題解決の手段としても期待が持てる。

## 長期的な視点と継続性

受賞団体の中には、長年にわたり同じ政策に取り組んでいる団体も複数あった。政策の効果を最大限に発揮するためには、短期的な成果にとらわれず、長期的な視点と継続的な取組が重要であることを改めて認識した。

## 多様な主体との連携

行政、議会、市民だけでなく、企業や大学など、様々な主体と連携した取組も数多く見られた。それぞれの専門性や資源を活かすことで、より効果的に課題解決を図れることを示唆している。例えば、

- ・市民の「違和感」を捉え、課題解決に繋げる政策を立案する。
- ・地域特性を活かした政策を検討する。
- ・他市との連携による広域的な課題解決を検討する。

多様な主体と連携することで、多くの市民の声や地域課題が浮き彫りになり、課題解決の一助となる可能性を感じた。

## 社会課題への対応

近年、社会構造の変化に伴い、新たな社会課題が次々と生まれている。これらの課題に対し、積極的に対応していく必要があることを改めて認識した。

## 今後の展望

マニフェスト大賞で得られた知見を活かし、今後の政策立案や議会活動に積極的に反映させていきたい。具体的には、市民参加の促進、情報発信の強化、AIをはじめとしたテクノロジーの活用、長期的な視点に立った政策立案、多様な主体との連携強化などを検討していきたい。

## 終わりに

マニフェスト大賞は、政策の重要性と可能性を改めて認識させてくれる貴重な機会となった。今後も、地域社会の発展に貢献できるよう、積極的に議員として地域の課題を解決する活動に取り組みたい。